

(様式第4号)

上田市総合計画審議会(第3回厚生・教育部会) 会議概要

1 審議会名	上田市総合計画審議会(第3回厚生・教育部会)
2 日時	令和7年2月6日 午後1時00分から午後2時30分まで
3 会場	市役所本庁舎 2階 202・203会議室
4 出席者	荒川玲子部会長、竹花のり子副部会長、鳥羽泰之委員、永井理恵委員、高橋比呂美委員、関綾音委員、中島冬陽委員、丸山宏尚委員
5 市側出席者	北島福祉部長、室賀健康こども未来部長、小野沢教育次長、柳沢福祉課長、上田障がい者支援課長、西澤高齢者介護課長、櫻井健康推進課長、小林地域医療政策室長、坂口国保年金課長、久保田保育課長、加々井子育て・子育て支援課長、町田教育総務課長、宮原教育施設整備室長、長田学校教育課長、小須田学校保健給食課長、上原生涯学習・文化財課長、田中中央公民館長、金田上田図書館長、坂部市立博物館長、清住学園都市推進室長、小場福祉課庶務施設係長、前沢健康推進課健康政策担当係長、鈴木教育総務課企画担当係長、堀内政策企画課政策企画担当係長兼政策研究担当係長
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年3月3日

協 議 事 項 等

1 開会(柳沢福祉課長)
2 部会長あいさつ(荒川部会長)
3 議事 (1)第三次総合計画 前期まちづくり計画(素案)について ・資料に沿い、各担当課長より第4編について説明 ・以下、質疑応答 (委 員)健康管理の子どもの部分と周産期の部分に自殺対策を入れて頂きたい。現在、婦人科では出産後の出血や合併症よりも、自殺の方が死亡率が高いという問題がある。先日の新聞でも、昨年度は子どもの自殺が過去一番だったようだ。今回間に合わなければ次回でもよいが、自殺対策に是非取り組んで頂きたい。また、子どもの発達に関して診てくれる医者が非常に少ない。以前は上小地域で子どもの発達や精神的な部分を診てくれるところが2カ所あったが今は1ヶ所で、もう1ヶ所は新規を受ける事ができない。地域への派遣も困難な状況で、医療的な面から見たサポートが非常に厳しくなっている。こうした、自殺対策および子どもの発達に関する医療の面については、何かの形で入れて頂きたい。 (事務局)妊婦の心の問題に関しては、資料のP102が該当する。安心して出産子育てができる環境の実現に向けて妊婦の心のケアに取り組んでいる部分もあるので、記載を検討したい。 (事務局)発達障がい関係の相談体制に関しては、P96「4-2-1」の基本施策3「障がい児への切れ目のない支援」で、発達障がい児の年齢や成長に合わせた継続的な支援について記載している施策がある。発達相談センターを中心とした相談体制の充実を図り、早期の対応に努めてまいりたい。 (委 員)P98「4-2-2」の表について、出典が上田市作成(福祉課)となっているが、いつどのようなアンケートで訊いたものか分かったらよい。もう一点、P98やP105に「ICT設備の導入」とあるが、デジタル化はとても大切だと考えている。デジタルに強い人材の育成や、

IT 専門の職員が保育園の ICT 化に関わったり、福祉課の個別避難計画のシステム導入などに携わって頂ければよいと思う。既に進めているとは思いますが、第 4 編だけでなく全体に対する提案という形で、そうした人材育成に力を入れて頂きたい。

(事務局) 前段については、第四次上田市地域福祉計画の策定にあたり市民アンケートおよび事業者向けのアンケートを実施したものであるので、P102「4-3-1」の円グラフのような形に修正を検討したい。また ICT の関係については、福祉課ではデジタル化を含めた個別避難計画ということで、市と自治会、社会福祉協議会とで作成している災害時要支援者登録制度のデジタル化などについて、庁内の専門部署とも連携して進めていきたい。

- ・資料に沿い、担当課長より第 5 編について説明
- ・以下、質疑応答

(委員)「5-1-1」P108 に関連すると思うが、中間教室など学校に行きづらいお子さんに対する支援や、子どもの居場所に関する記載はあるか。無ければ入れて頂きたい。「おけまーるジュニアセンター」や「上田映劇」など設定されているところがあると思う。学校の出席日数にカウントできるといったことも聞いた気がするが、その辺の市の取組状況もお聞きたい。

(事務局)「5-1-1」基本施策 2 「校内外の相談支援体制の強化」の中に、例えば校外のふれあい教室や民間の施設等を包括し、相談支援体制の強化という事で盛り込んでいる。具体的な名称等は個別の教育支援プランに記載させて頂きたい。また、民間施設との連携等についてもご質問頂いた。市では、不登校児童生徒を支援する民間施設等に関するガイドラインを一昨年度策定し、民間施設等を利用した場合、所定の聞き取り等を行なう中で要件に当てはまっていれば、出席扱いにしているといった取り扱いをしている。

(委員)「5-1-1」基本施策 2 に「自分や他人の大切さを認めること」と記載があるが、「いじめ対策」という言葉は挙がっているか。大きな問題が起こると「これに対してこうしています」といった後付けのような事が多い気がするが、特に「いじめ」という言葉を入れて対応しているところはあるか。

(事務局)「いじめ」という言葉で表現している部分はないが、基本施策 2 「児童生徒の権利・安全」にて、「いじめ」や「自殺」等を想定した文言としている。また、「いじめ」に関しては、大変重大な教育課題であり人権課題でもあるので、教育委員会としてもいじめ防止の基本方針を定めており、各学校においても基本方針を定めている。この基本施策では「権利・安全」という中で包括している。

(委員) P108 一番下「授業がよくわかったと答える児童生徒の割合」について、基準値は 81.3%(令和 6 年度【全国学力・学習状況調査(文部科学省)】)と記載されているが、どこからこの「81.3%」が導出されたのか教えて頂きたい。また、授業がよくわかる児童生徒として、回答が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足して 8 割近くになるという形であれば、注釈を入れたほうがよいのではないかと。「よくわかる」を上げていかないことには、学力が上がっていかないように思う。2 点目として、先ほどの質問への回答として、教育支援プラン、個別計画に反映していくという事だったと思う。前回協議した策定シートで「継続」という項目がたくさんあったが、これらは個別のプランで拾い上げていくという解釈なのか。例えば、「コミュニティスクール」は「地域との連携」という部分で、学校もどんどんやっているし、国も強めている段階だが、「コミュニティスクール」という文言が全く消えてしまっているため、できれば入れて頂きたい。もし総合計画で入れるのが難しければ、個別計画の中でしっかり拾い上げて頂きたい。また、P109 基本施策 2 「誰一人取り残されない～」に関して、例えば は全ての子ども達に関わる部分で、 は外国籍児童に関わる部分となっている。できれば全ての児童に関わる部分が上に持ってきた方が順番としては読みやすいのではないかと思います。

(事務局)「授業がわかる」の回答率についてであるが、これは全国学力・学習状況調査において、

特に国語・算数・数学の授業について「授業の内容はよく分かりますか」という質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の4択となっている。「授業の内容がよくわかる」に当てはまるのは2割程度、「授業の内容がよくわかる」にどちらかといえば当てはまるのが6割程度、合わせて8割という事で、80%になっている。国も県も「教育振興計画」というのを策定しており、その中で「授業がよくわかる児童生徒の割合」を一つの指標として示している。長野県の総合計画では、82.7%の現状以上に持って行くとしている。子ども達にとって「授業がよくわかる」につながる授業改善を行なっていく事が大事であり、国や県と同じ様な視点で設定したものであるので、ご理解を頂きたい。注釈が加えられるのかどうかという点、また「授業がよくわかる」と言っても国語と算数・数学においての回答なので、すべての教科についての回答ではないという事についても、表記を考えられないか検討したい。「コミュニティスクール」については、地域に開かれた学校づくりという点で、必要な大事な取組である。現行の教育支援プランの中においても、「コミュニティスクール」または「学校運営」という文言を記載しているので、引き続き「地域に開かれた学校づくり」「地域と共にある学校づくり」という視点で、「コミュニティスクール」の文言は示していきたい。3点目の基本施策2～であるが、基本的には順位は並列という関係である。頂いたご意見も踏まえながら、事務局とも相談したい。

(委員)「5-2-1」P114「各主体に期待される主な役割分担」について、大学などの部分で「研究成果などを市民の学習や地域づくりに活かします。」とあるが、研究成果を活かす前に、研究成果を地域にもう少し開いていく事が大事だと考える。例えば、卒業論文の発表を学内だけでなく、地域の小中高生や地域住民へ提供したり還元できるような機会を設ける事で「活かす」という事ができてくるのではないかと。「地域に開いた大学運営」のような文言を追加して頂きたい。

(事務局)ご指摘の点は全て含んでいるという事で、「まちなかキャンパス」等で大学での研究内容や取組の発表、また市民講座の開設などをやっており、前回ご指摘があったようにあまりPRできてない、認知度が低い点について、HPなど順次進めている。また、今後新学部ができてAIなどの部分になってくると、今度は同じ市民でも企業との連携や研究成果の活用というのも進めているので表現を加えられればという事だが、そういう事も含めた記載という事でよろしく願いたい。

(委員)P111「5-1-2」の現状と課題に「大学などの専門知識や学生の若い力を～」と記載がある。地域の活性化や卒業後も地域を支える人材、といった文言があるが、卒業後も地域を支えるという事だと「地域」という言葉の定義がぶれてくると思われるため、そもそも「地域」という定義をお聞きしたい。

(事務局)地域の定義はなかなか難しい。上田市の大学だから上田市により多くの若者が集まりそのまま就職してくれればよい、という事ではなく、やはり長野県全体の大学数というものもある。その下の指標にもあるが、県内県外の数字を出している。県内在住者、上田在住者も首都圏の大学へ行く事は当然の事であるし、それとは逆に他県から上田市へ来て頂くというところで、大学の存在意義というのも出てくると思う。また、大学でさまざまな活動に取り組んでおられるが、研究のテーマや地域にそういったものを活かすといったところでは、その課題解決に当たった地域がそれぞれの地域という位置付けになると思う。

(委員)そうした課題を反映し、達成度をはかる指標・目標値のところ、県内の卒業後の定住率や就職率と言ったところも指標に入れて頂くと、分かりやすくなると思う。

(事務局)我々も長野大学の経営に携わるところで、長野大学の県内就職率などのデータは持っているが、卒業時の数字であり定住かどうかというところで難しい点もあると思うが、今後施策を進める中で、そうしたデータや数値も見ながら進めていきたい。

(委員)「5-1-1」現状と課題について、「発達障がいのある児童生徒の増加」とある。これまでの話を聞いていると、おそらく個別の計画やプランの中に盛り込まれていると思うが、あえて確認したい。例えば、実際学校運営などで「地域の連携」という文言がある中で、

今、小学生の児童クラブで発達障がいや特性を持った方の受け入れがなかなか難しいという現状があるが、そうした放課後の支援などが文章からは読み取りにくかったため、今後盛り込まれていくとすればどういうところになるか具体的に教えて頂きたい。もう一点、全体的に「子どもの教育環境」が主に挙がっており、それはそれで良い内容だと思うが、「教職員のメンタルヘルスケア」については記載がない。学校の先生を取り巻く環境として、教員になりたいけどならない、働く環境、休職という問題も多くあると思う。こうした「教員のメンタルヘルスケア」がどこかに入ってくるとより良いと思う。個別計画の中で盛り込まれているという事であれば教えて頂きたい。

(事務局) 障がいのある子ども達の放課後の施策に関して、「4-2-1 共生社会の実現」の中の基本施策3 に「インクルーシブな教育を推進するとともに～」という事で、5編と重複する部分はあるが、特に居場所という事で放課後を含めた支援体制、そしてP95 現状と課題の中において、下から4番目のポツ「児童館・児童センターや放課後児童クラブでは、～」の部分がある。今ご指摘頂いた部分は、私どもも放課後の施設の団体から色々要望を聞いているし、市長部局からも教育委員会と福祉部局でしっかりと連携するよう指示を受けており、支援体制の強化充実または受け入れ等についても考えている。

(事務局) 健康教育の部分については、今回新たに項目として入れた部分。記載としては、児童生徒という形での言い回しになっているが、いわゆる学校全体の中での健康作りや健康相談といった部分も含めて文章に盛り込んでいる。実際の活動としては、先生方の健診やメンタルヘルスも十分対応していくものである。表記として教職員のところも含めるかどうかご意見を踏まえ検討をしたい。

(部会長) 文面の表現の仕方について質問だが、P109「各主体に期待される主な役割分担」の「家庭」の最後に「家庭教育を充実します」とあるが、違和感があった。「充実させます」という表記がよいかどうか、検討いただきたい。

(事務局) この箇所は、家庭、学校、地域の視点にとって自己宣言する部分となっている。ご指摘のとおり保護者にとって「充実します」ではなく「充実させます」が適当かと思われるため、修正したい。

(部会長) P109 下から4行目「地域の関心を高めふるさと～」について、バランスをみると「高め」の後に点があったほうが自然だと思う。

(事務局) ご意見を踏まえて検討したい。

決定事項：本案を採用し、中間答申とする

(2) その他

(委員) P20 キャッチフレーズのところで、P18は「笑顔あふれる」が入っているが、P20は抜けていると思うので入れて頂きたい。

(事務局) こちらの不備である。皆さんの意見を反映して入れた言葉なので「笑顔あふれる」は入れさせて頂く。

4 事務連絡

- ・ 次回部会開催日程について

日 時：令和7年6月26日(木) 午後2時15分から

5 閉会